



豊友

題字 加藤精一 猯下

第150号

<http://bussei.gr.jp/>



真言宗豊山派仏教青年会 第三十代会長就任挨拶



真言宗豊山派仏教青年会第三十代会長
東京五号 梅照院 根本聖道

この度、真言宗豊山派仏教青年会の第三十代会長を仰せつかることとなりました。就任に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

まず始めに、様々な課題の解決と新たな発展に向け、積極的に活動されてこられた花園会長をはじめ、歴代会長のご尽力とご功績に心から敬意を表します。

高祖弘法大師のみ教えを胸に、諸先輩方が築かれてこられた歴史ある豊山派仏教青年会の活動は、経験や教養を深める絶好の場所であると同時に、それぞれの立場・地域を越えた多くの同志をつくる場でもあります。人との出会いが人を作り、より成長させてくれるものと思っております。

このような本会の持続的発展を確固たるものとしていく重要な時期であると共に、昨今の混沌とした社会情勢、また、

合掌

全真言宗青年連盟 副理事長就任挨拶



東京号 西光院 鈴木道盛

はじめに、平成二十六年度を迎えるにあたり、花園昌道前会長並びに前執行部事務局各位におかれましては無事任期を満了され、そして豊山仏青新会長に根本聖道師がご就任、第三十代執行部事務局を発足されましたこと心よりお慶び申し上げます。

この度、豊山仏青と時期同じくして全真言宗青年連盟(以下全青連)執行部も任期が満了となりました。全青連新執行部発足にあたり、新理事長には岩田慈光師(高野山)がご就任されました。その中、執行部には三人の副理事長が選出されますが、その一席を豊山仏青から出向し、欲しいとの要請があり、豊山仏青、全青連関係各位のご推挙を頂戴し、浅学非才の身ではございますが副理事長の任を務めさせていただきますこととなりました。前執行部において高橋将雄豊山仏青元会長

合掌

豊山太鼓「千響」委員長就任挨拶



東京四号 宝林寺 猪狩正貴

この度、木村量興委員長より豊山太鼓「千響」第三代会長を拝命致しました。東京四号仏青所属の猪狩正貴と申します。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

さて、「千響」発足から五年の歳月が過ぎました。この間、各地コンサートへの協力や太鼓人口の拡充に努め、太鼓を通じて豊山派青年僧侶として様々な活動をして参りました。

とくに、東日本大震災発生より復興支援活動を主眼とし、今やるべきこと、成さねばならぬことを第一に考え、出来るだけ

迅速な行動をして参りました。

引き続き、豊山仏青と連携して被災地支援活動を継続すると共に、太鼓の輪が広がって行くことを期待し各地区仏青への講師派遣、地区別講習会の開催、各種コンサートへの参加協力等、検討してまいります。

どうか「千響」の名に込めました想いを感じ取って頂きたく、ご協力ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

豊山仏青WebSite 編集委員会委員長就任挨拶



東京六号 三光院 門屋昭響

この度、豊山仏青WebSite 編集委員会委員長に就任いたしました。東京六号仏教青年会の門屋昭響です。委員長という責任ある立場に就くプレッシャーでいっぱいですが、喜びも感じております。

早いもので、Web 委員となつてから七年目になります。

はじめはホームページ作成の経験もなく、まさか自分が委員長になるとは微塵も考えておりませんでした。

現在、ホームページをはじめとするインターネットは私たちの生活に不可欠な

ツールとなっております。災害時にもインターネットの力が発揮され、ツイッター、フェイスブック等を自治体を利用して迅速な対応をしているケースもございます。Web 委員会といたしましても、根本新会長のもと、豊山仏青ホームページを各地区仏青活動の情報発信、情報収集に活用していただけるよう、皆さまと共に作り上げていく豊山仏青ホームページにしていきたいと考えております。

若輩者の私ですが、一生命務めてまいります。どうぞ一年間よろしく願いたします。

全真言宗青年連盟出向者

顧問	坂井智空(高知)
副理事長	鈴木道盛(東一)
常任理事	根本聖道(東五)
理事	花園昌道(東二)
理事	新田瑞壽(愛媛)
災害救援委員	平林寛征(福一)
会計	安晝明正(東一)
CS委員	青木宏憲(千三)
事務局員	平井俊和(東一)
事務局員	荒木寛信(東二)

全真言宗青年連盟第35回結集 泉涌寺大会 案内

大会テーマ	「諸悪莫作 衆善奉行」
開催会場	泉涌寺
開催日時	平成26年 10月22日(水・先勝) ~23日(木・友引)

第17回 智山 豊山 新義 青年会合同結集 根来寺大会 案内

大会テーマ	「興教大師報恩講一祖廟に捧ぐ一」
開催会場	根来寺・ホテルいとう
開催日時	平成26年 12月11日(木・大安) ~12日(金・赤口)
参加費	20,000円

写仏講座

9月12日(金)	10月10日(金)
11月14日(金)	12月19日(金)
午後1時より	
詳しくはホームページをご覧ください。	



東日本大震災からの福島

真言宗豊山派仏教青年会副会長
福島二号 長谷寺 平林寛征

二〇一二年三月十一日、私は福島県伊達市にある自宅の庭先で、家族を腕に抱きかかえ、地震の長く大きな揺れに必死に耐えていました。その時、腕の中で震えていた小さな我が子が今年小学校に入学しました。その成長した元気な姿は、希望に満ちあふれていて、震災の面影はありません。田植えを終えた水田は一面緑色に輝き、果樹は豊かな実をつけようとしています。その風景にはもはや、震災の面影はありません。もう、あの震災は過去のものなのではないか？

私の住む伊達市は相馬郡飯舘村に隣接しています。この小さな村落は震災前、美しい自然から豊かな恩恵をうけていました。しかし、南東の風に運ばれた放射能物質によって汚染されて、村内のほとんどが居住制限区域となりました。福島では今もなお十三万人の人々が県内外で避難生活を強いられています。そこには、打ち捨てられた荒れ果てた田畑と牛舎があり、人々の深い苦悩と茫漠とした不安があります。私たちは、希望が、不安と苦悩と隣接

していることに気づかされます。それは今、現実に、そしてまた私たちの心の中で、隣り合っているのです。苦悩と不安は、その濃度を増しながら福島第二原発まで続いています。

あの震災は福島をバラバラにしました。県内の五十九ある市町村の「まち」と、「しあわせ」を震災は、津波は、原発事故はバラバラにし、津波はたくさんの尊い命を家族から奪い取りました。原発事故は福島を「帰還困難区域」と「居住制限区域」と「避難指示解除準備区域」と「その他の区域」に色分けしました。その区域はもとの「まち」とは形が違っているが故に、様々な軋轢を生みました。隣人との軋轢、家族の間の軋轢。東電からの賠償金の総額はすでに三兆円を越えています。「幸せは金で買える」とむかし誰かがいいました。しかし、幸せは一向に増えず、むしろそれによって、苦悩のほうが増しているように思えます。人々は隣人との間の賠償の差に憤慨し、家族や親族は賠償金の行方をめぐり対立し憎しみを募らせています。また、人々は就労意欲をなくして生きがいを失っ

ているのです。これらは悲しむべきことでありますが、現実は今、起こっていることです。苦悩の根は絡み合いながら深度を増しています。

震災後、福島は「復興」というスローガンのもとに、「がんばろう福島」を合い言葉に、共に歩んできました。その間にはたくさんの支援があり、「復興」を力強く後押ししていただきました。被災者の一人として心から深く感謝申し上げます。おかげで福島は勇気をもらい、再び立ち上がり、一歩二歩、前へ歩むことができました。しかしその一方で、被災者ひとりひとりの苦悩は「復興」という言葉で二様に塗り込めることはできず、その場に置き去りにされてきたように思います。それはまるで、銀色の遮蔽壁のなかに積み上げられた放射能汚染土のようであり、覆い隠すことでは根本的な解決にはなり得ない。苦悩の根を断ってはじめて、再生の芽は大きく育ち、ほんとうの花を咲かせることができる。

いま、私たちがすべきことは、私たちにしかできないことは、僧侶として、仏教の教えをもって、「お大師さまとともに」被災者ひとりひとりの苦悩に寄り添うことだと思います。いまこそ私たちはその本来の姿に立ち返るべきだ。それが唯一の「復幸」への道であると思います。



放射能汚染土の仮置き場



途切れたままの道(相馬市)